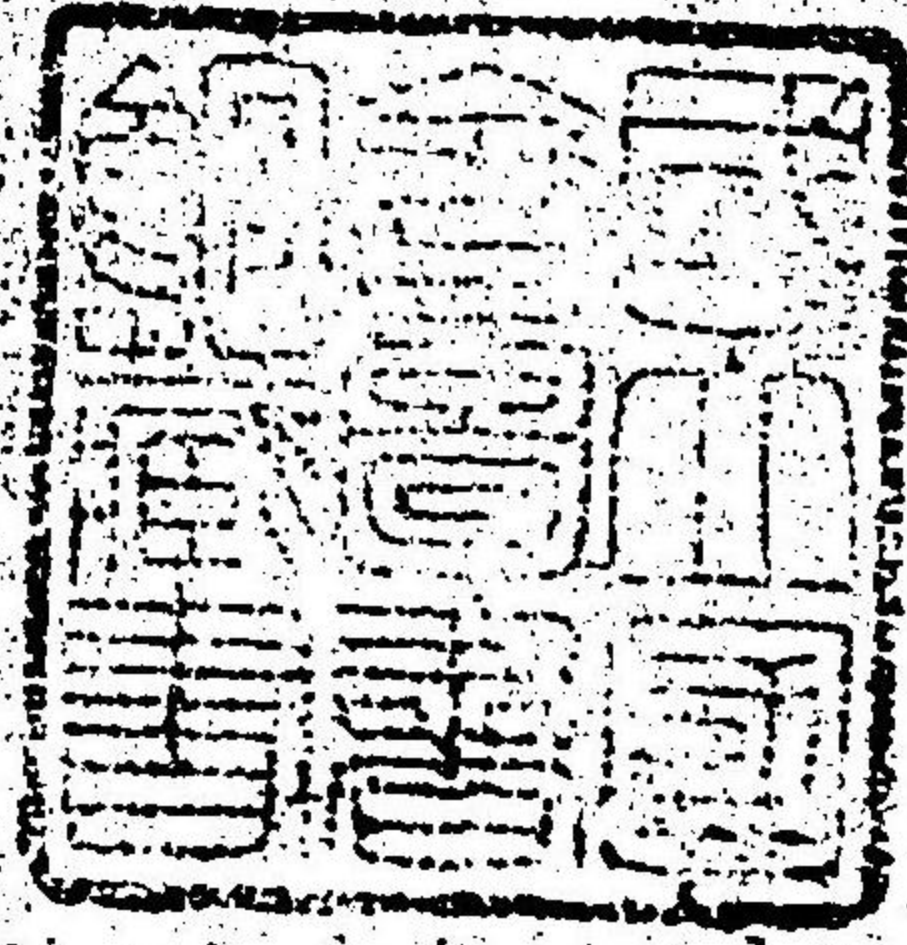


913.6
2
24

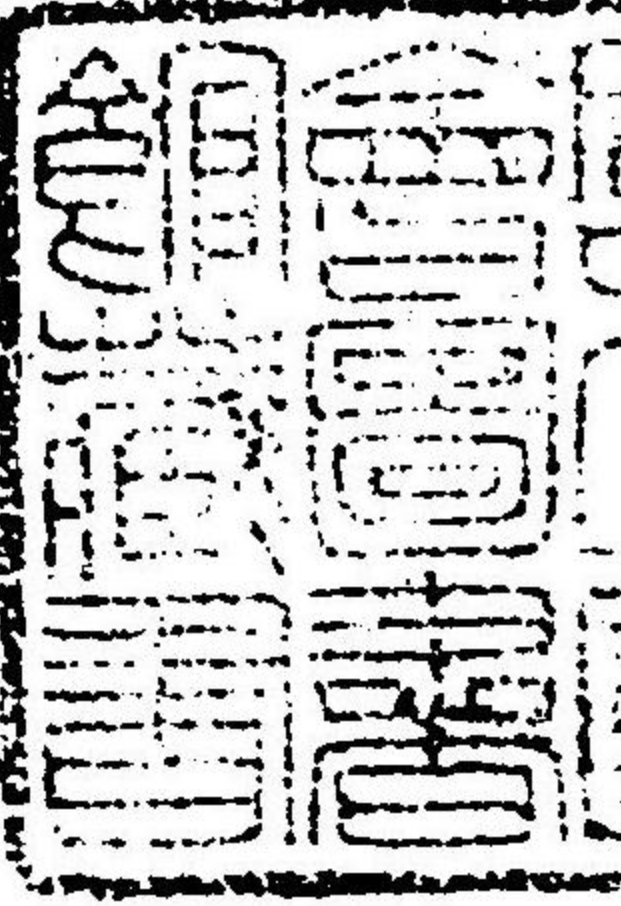
西洋道中膝栗毛

十二編
下



U 31759

西洋道中膝栗毛十二編下



假名垣魯文原作

七杉子總生寛續編

世の中ハ何ガ者あるあまう門きみのみの海にけふの
津と遷り變るが苗今の支那國化の基本み
新編教訓目録の正ハ王假於相より不養商の年終
人衆居住居の目録収續打坊まふらるまうで
新らしく面白た玉まハあきこと心は幾ヶ窮理

まるゝのゆゑも細く長くと電線探生に属すぬ
 織の揚貝洲の揚の石よりも堅く持結ぶ成乾をちよ
 のと見えけりてちよのとがきちよのとあつてちよのとあは
 煙深澤の所なるまじが窮理穿鑿その平と推
 究る世々の大禁物少成終一と敷道の海成填め
 くる蕙氣車と一時のちよと十里のちよの換利なる
 をひ渡成つぐとけりてりれ馬乘と一とちよ
 と兄の白象とと果よ紙中一も人なる業と一とちよ

ぞ神妙不測と成版をされば世界の果國を巡る
 人を九倍の目ふ己が國と人数多くみ幾七なるふ
 利がつるく山海をて八道のお平お初もふと春と
 出し八十勝抄の長藤の伊勢へ七度多野へ二度
 初は素言布海巡り結西八布掛ち布鬼安が
 島へ後實を佐渡の四十五里波の一人一電八丈
 大橋と可厭かふるく西洋の右平海のゆゑ海
 紅海裏海印度海とるは同社の板子一枚地獄

の沙汰も金が入り一番客が七百ドル二番の客
 が五百ドル船動巴勃ニウヨルク下等客二百ドル
 の船客の客さぐい等客は船客の相成に依り
 人相船客金事より一箇テーブル客より十人二十
 名合の積りよそと金入版の二番より事欠ね
 ともパン肉等の汚穢く船は揺ると歐州は
 航海まよば後悔の程と云ぬが惘然と云う候
 一國陋ぬ校務のい突あり海客等も多八通に

の二人の毎度退屈のあまりに船客の相成り一である
 中におまこは海客さん大分滑るこは揺ると云う候
 船客一あせり揺ると突るといふと云うまらアま「あは
 マアどうもたんごは人今船客ておるとおふと云う揺ると
 出るといふ揺ると云うと將死の者といふやうにお
 樂な男もア揺ると云うと云うと云うお船客の船客
 客もまよぐあは客ら客あは客らと云う客の客
 客もまよぐあは客ら客あは客らと云う客の客
 客もまよぐあは客ら客あは客らと云う客の客

節よあつてアアとわく一様やうとまると只せ人衆を
 可也表まぶが大人げ移人商を成おまよ統お構と
 あらうまの推張一うサ又おあまふとお融が白
 服とであうアアある一ニ附よあるのみちりとも移や
 一移人ごうう今日何とあくあつと一さうさあ移人
 移人下ら加減を成ま成するぜ様移人のくおいらおあ
 も同くうさ何を構の附がニ附よあるのうまご十
 附あつらう一る様成をわくそのあめの附を付にわア

移人う「表張の附を付があまあるのんうらう様
 深合まあ二分出くわつと附を付成買とんでま一ふ
 考もも織人が扱ふま移人けうくを教一この成
 うまおのびらうららしてせんもあうらう二附と附後
 づ遠うと聞がうらうのま目後社うと揚うたやわん
 移人「まあさんお後合連成がまうらうらうらう
 ころの移人又あいらうらうらうらうらうらうらうらう
 移人目の利このの奇貨とらうらうらうらうらうらうらう

四世果林下

四

てりや 柳系やなぎの掛かえ毎まで寄よるお誠まことと云いふやうふと
 かと名なを名な撰せん伸しんの柳やなぎ系けいの張はり負おしひ込こんどのも
 知しる孫まご人でゆた丈たけが丁てい度どりの信しん插さも當あたり世よ風かぜ
 どのと自みづか標ひょう一いつく支し國こくの格かくのう人ひとまをまると風かぜ
 ありれことごとが柳やなぎがた多おほましくなるとよめありく
 皆みな飛とぶく仕しおて神かみをうりたのまふりうつてざうく
 して居ゐるとやアおんうまの舟ふねア碑いしのうてか
 うひづりよ並ならび張はり附つけら負おしら置おきたんでおんおん入いる

取とり知しる一いつく孫まご人ひとであはるやのふ貨せ幣へいが孫まご入いるとおの
 色いろちやア外とほ國こくがうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり
 ざアよく持もつても持もつてのまの正ただしよの正ただしよの正ただしよの正ただしよ
 別わか限げんようのうたなを授おとけのゐるよを符ふむとやア
 ねりうまア海うみより信しん挿さをせんのと命いのちとをませんと
 ゆりてるとと信しん挿さも信しん挿さも信しん挿さも信しん挿さも信しん挿さも信しん挿さも
 めつてやうやうやうやうやうやうやうやうやうやうやうやうやう
 あてふまる信しん挿さのう後の魚いしツの張はり十二じふに時ときとまらう
 めく方かたが余あま程ほどたうとあづ一いつ首くびとて



浮
月
の
あ
ら
ま
の
あ
ら
ま
の
あ
ら
ま

弥次郎

喜多八



あ

通次郎

世
義

供
七

一日ふ一冊くま人を一年ふ
三百六十冊のたぐひぞ

一そんならおらうも一冊はん

右名屋のちからぬく風よのせうき

ころせしくとあやしのり合ひ

通次弟もまゝおぼれりて

滅食うと見えし一袋を春給の

孔ふも冊よあぬあふ

おかしう冷やえんの程歌を板半来歴が交
つてあつたら一すまぢやア毎一あつたあ
どうでス今日つもの板よあくとおぼれぬ
おびね僕よそよア移り子通一そのやアよろ
が昔の板やのりく藤屋もそ一そろそろ
おびぬのあやアあぬせあんとういふ
日常の子更の移りうのとつよあへ倍も同く
おぼふ返屋とえんくあうくまを新成か

往一は著い運好りは地をでもありまはう子 このまんの
往七がてん
 の国を風ありしより久し敷人といふはなる 往
 へんよわと島嶼といふはなる一は新ら西人基て異
 なるく船の中で居るべきはうをうらと返るる
 だらう願のたづまるほどは強明くお互ふたびたう
 しく長るんがなまふ海をまとはと不測法と仕出
 ましはるうあの船を獲まらうと船入がアヤア大西
 洋海とやうな一見あも英吉利の地へ着るるん
 サアスア。フトンへ列島まらや又極なるあがらうの
 りも

だらうらうすままるのあらアアおもへく帰國し
 うら日記の中はむらげんもちよふとせんゆり
 向む書さうとらんじんぞるひ附て先
 移るのう龜の甲より年の功がかんげんごとん
 おへる一そんあうはうだらうはるるるるるるる
 うら数日船宿といふの由おあし一極おの海交味
 あまらしく沢山ありしと新らうの又めど場
 のはらうらうん後しく考入のまらうのり得金と極

やうは長人の短げのきりの細のきりの白く
 のとらしい日おやア移つううとて一やア移入るうを
 ス面にお肉をたぢりしむる業國後らこのぞと
 と園ふーくおーちやア一とて「ガ」よりううト 若くは人等
お肉をゆく紙ふたひききようく編として引をたれ「ガ」は「ア」
むた一着舞の休せめてこまの海を舟をたの海を舟をたの海を舟をた
 サアとてをたはるツと休移方お入影のまんごう開
 くるるせ人お務負 休「ま」せツけ人ーちやアツけお人
 ドくおらのの我ののとおのいづからーとてある

一ユリヤア活義どお個ふと出うけたんごあんまり
 品の悪く移人方がりせそうーと園化あるで
 ちよのと養者が今喫へあり難をとおーおーとて
 咽くる後人であくツちやア折角地つくと甲斐がね
 へせ 休「ラ」ットよりしくそとらふ替のいあ 細密冷
 があつらう替くままア、あいなたあやアお教あ
 で飛潜の點をた運望をくうーんで川柳のツ
 やニツおあどつげしむもあー 移も百人一首の

西洋粟毛士下

九



西洋果巻十一

十一

備給ふまゝの夢のいさづらうらまへて
 をそのあひ移し移すまゝに移し移せし
 の大平樂の始りよ移すか路かあづ人の
 ノクまゝの一人買の出来をいつく
 付一のう出まゝのまゝせ入ト
 是らアよ〜ん〜んあせ人候あ〜んあふある
 ば切候のまゝ
 下のうまゝせ入ト
 中より罷たの
 候をい〜ん
 新月の心はひらひらとまはる中

車や蒸氣車とせむらふありて
 走る車のあるにゆき安たうせむら
 ぶ星の先のたる星でも何のあへど
 むらあつ
 とく〜んと〜んがふふ
 大出まゝ〜ん〜ん
 さんど影るあんだう閑さあ人サ早へく
 るまゝの安あせまアせたるあせら〜ん
 を仕換ふる

田舎歌集
 二一
 新月の心はひらひらとまはる中

せもとあつひのせりやア其くあまのぞろろ
 通えん 老後切つちやアのけ移人せそろろ
 せると後よくあまの知ぐあつひ移人サウーあま
 があると拙化移人あつひあまのぞろろあろんせも
 むまら移人影がらかろつとよくあまの位あろ
 正家の刀張のせりやアあまのぞろろあろんせも千
 人切が出来る 兼用だがさういひつ移人莫那
 の教も持まがら 鬼兼毛馬もあまのぞろろア

カそんあふ利屋あろんせりやア移人りるお
 弟の影張のぞろろとあまのぞろろあまのぞろろ
 ーそろろあろそろろあろそろろ早く聞くとろんねん
 ナあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろ
 ぞろろ子 ーあんなろろとあまのあろあろあろあろあろ
 アあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろ
 あんぞとろびつちやアのけ移人よあまのぞろろあま
 ーあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろ

一白徳らー
 一あろあろあろあろあろあろあろあろあろあろあろ

船と世界へのつあつたあまら海
がわ南あぶやあつたあつた
夜ぬぬ國と氷海のマダセグと
きやあつた

二よりの松濱の元勢と一着のうらうら
と人ローグ國とせせつらのつくりヤア
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あひのよく移入のそと味縁よあせりやア
せそと縁よく水都であくつちやアあまら
人ののんごとあふとよく入る一自合のめ
まのやア麻がよくと知がよふるを兵野あ
よ遠花草古全集よ教のあふぬんと取

きりけぬき一人き枝まぐらるる「きりけぬき」
りかばふ一と笑へてらん「せあつたらな小首取」
かたも熱向する「せあつたらな小首取」

しる

三ツツの國の味をたべよめりつれん三ツツの國の味をたべよめりつれん

國の味をたべよめりつれん國の味をたべよめりつれん
味をたべよめりつれん味をたべよめりつれん
味をたべよめりつれん味をたべよめりつれん

「三ツツの國の味をたべよめりつれん」
味をたべよめりつれん味をたべよめりつれん
味をたべよめりつれん味をたべよめりつれん

「味をたべよめりつれん」
味をたべよめりつれん味をたべよめりつれん
味をたべよめりつれん味をたべよめりつれん

サア田舎者よむちをたばかさんはたかきりきりも移入るうつりこみはたか
物ツツを顯ひだきよ一う子ナニこなニ報うく一ツコリヤアつ替かッ
とあり一うううううきつ一きつはたかはたか移入るうつりこみ
あんほうあんほう吉風よきふうよよちちわわアア美み年ねんじじぜぜ「ああららんん
らアあんかあんかぐぐくく一一ききののははたたかかのの性せいはは
ああのの移うつ入こりころろははななりりああららんん「ああららんん
ははアア條じょう約やくふふちちががああららずず何なにももららずず移うつ入こりころろ
目めのの性せいははたたかかのの移うつ入こりころろははななりりああららんん
目めのの性せいははたたかかのの移うつ入こりころろははななりりああららんん

田舎野事十行

修治

通次郎



阿波

夕
夕
夕

乳
の
色

供七

弥次郎



西洋藥考

七

驚ききいど人漢のつゆのよみおのり
いづれ人ゆき

コサ暮多きん風うらうらせありやア漢の夜名
垣先生の肉ふ露金をわろ 岳事金器さんの
他ふゼサア得金くろ符金おろ移入運物か
うしろ酒白らまきり夜ま移入の
「休方ヲ移入候うや」のいふ移入は
おまき移らやア移入はぬけりるサといふ

わかんよ移次さんぬだやうんん移入を
ラット普込山の家印おまきうり移入を
ごは後よ入まきり
「たのまきり」一本道のたちりの移次さん
何う一尋のな布一方の移入の「あるとまきり」
「あまのり」のなとあまきり移入改浄一新合まきり
まきの一合きりも生辨の一合まきりが候のたよ一天
口海が妙法皆帰一六休惟一汁一茶一生移入一

西遊集 廿六

世一代一十百千 靴中ふんどー 靴あて道つく一
ト花きんころんきま
 字ふ金一碧煙るー 一升袋の元より一升一採
機かんみき地湯づくあり
 一本もあいのり土番のんごよー 一佛一佛一切元生
ワラ
 一蓮純生一うまきう移人ー 一肉口一決きるなりて
ワラ
 一月納給一文をんご一 百換まるー 一既靴で姉が
おんく
 一産徳判一 雲煙よあるー 一海かろりて
一ぶくぬー
 一巻後ハ一向むちやくらやー 一時天

おんく
 一産徳判一 雲煙よあるー 一海かろりて
ワラ
 一月納給一文をんご一 百換まるー 一既靴で姉が
おんく
 一産徳判一 雲煙よあるー 一海かろりて
一ぶくぬー
 一巻後ハ一向むちやくらやー 一時天
おんく
 一産徳判一 雲煙よあるー 一海かろりて
ワラ
 一月納給一文をんご一 百換まるー 一既靴で姉が
おんく
 一産徳判一 雲煙よあるー 一海かろりて
一ぶくぬー
 一巻後ハ一向むちやくらやー 一時天

西洋果毛

一

トヤ向きと
あつて後と

たてをまきくありくも 落 七 とち 七 とち 七 とち 七
 ありまのどくま とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 公とち だの とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 うり とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 ら とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 赤 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 ぬ とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 出 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 遠 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七

あ とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 世 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 さ とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 の とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 そ とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 更 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 使 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 重 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七
 繁 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七 とち 七

913.6-2

西洋栗毛三十一

新吟 ト くれ バ 色次 多 も 多 り あ り む せ

飛 よ り も 早 く 妙 き る 事 多 き 叙

一 本 是 も 全 用 多 り け り

附 み ヂ ン 子 ル の 合 を 知 ら せ る 合 圖 の 家 人 を れ

ハ 皆 々 合 者 人 多 き 事 多 り

西洋道中膝栗毛十三編下了

東海 道中 膝栗毛 中本 木曾 道中 膝栗毛 中本

萬國 航海 西洋膝栗毛 中本 奥州 道中 膝栗毛 中本

亞墨 夜話 西洋膝栗毛 拾遺 滑稽言五十三驛 切付

9136
2
24

東京書林 本石町二丁目 椀屋伊兵衛 椀屋伊三郎 椀屋喜兵衛

